

【提案】

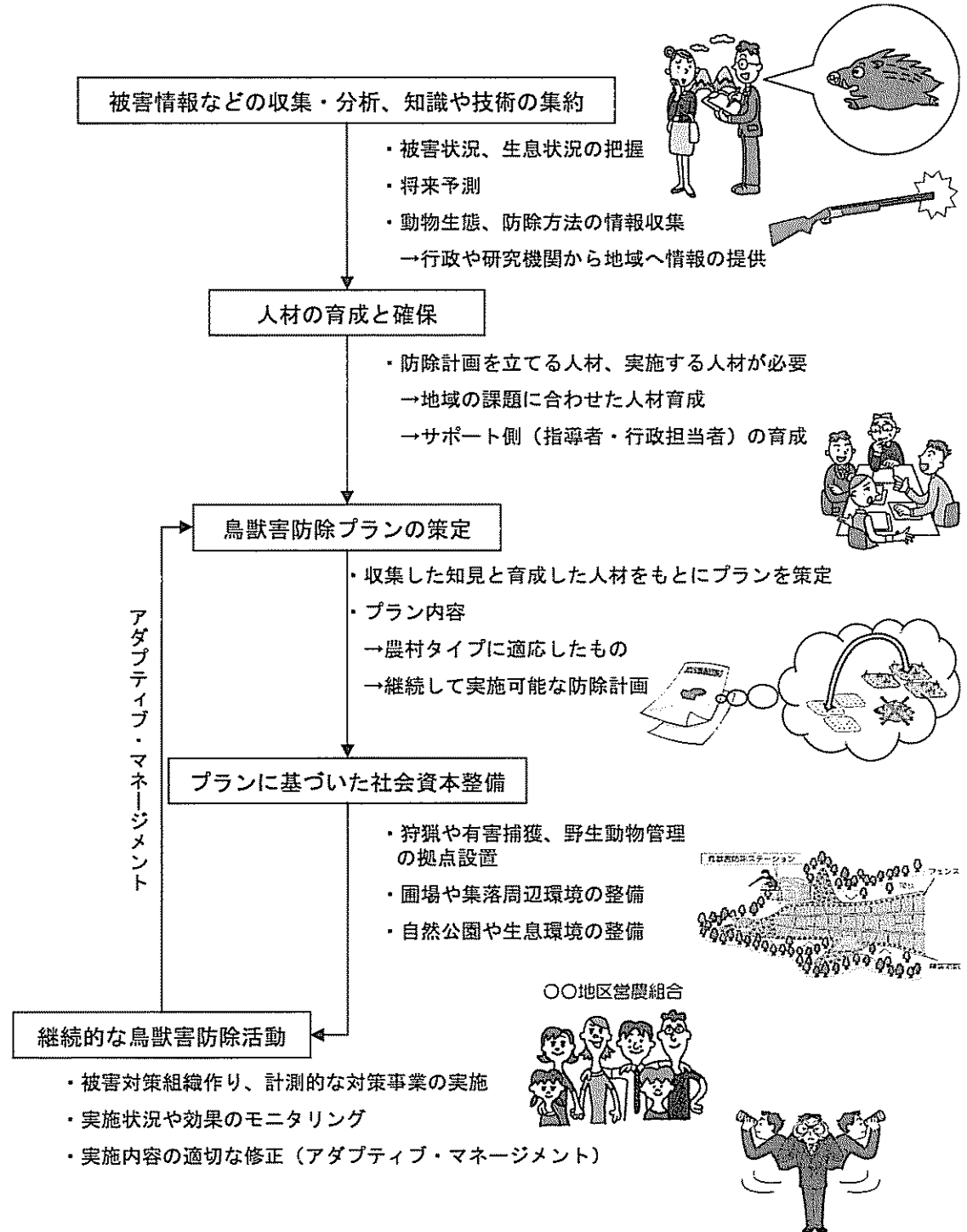
社会資本の整備にむけたフロー

鳥獣対策には、地域の連携と継続的な努力が必要
地域の目標に応じた防除計画に基づき、
継続的に運用できる体制を作ることが重要

そのために、社会資本を整備するには、
運用やソフト面を重視し、
以下のような、手順をふまえる必要がある。

【社会資本整備と防除活動実施に向けた手順】

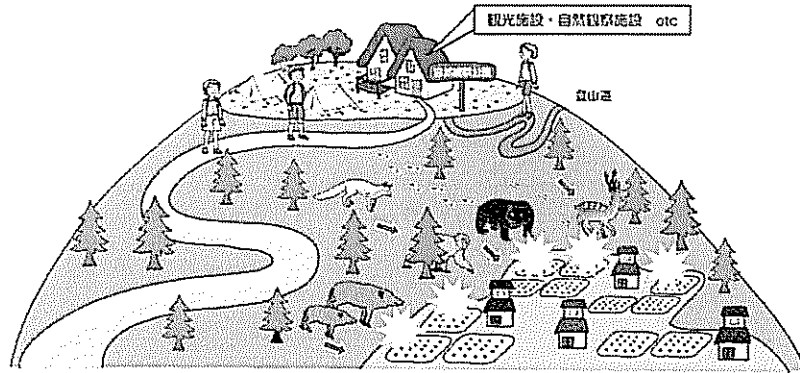
1. 情報の収集・分析、知識や技術の集約
2. 人材の育成と確保
3. 適正な野生動物の管理プランの策定
4. 管理プランに基づいた社会資本の整備
5. 継続的な被害防除と効果の検証



【社会資本の整備の例示案】

ここでは案を示すが、社会資本の整備は、具体的には、地域の生産目標や防除目標にもとづき地域の防除計画や野生動物管理計画に基づいて行われるべきである。また、生態系や社会的環境には不確定要素が大きいいため、特に自然環境の改変に関しては、その結果をモニタリングし、成果を見極めながら手法を適宜修正し、方法論を確立していく必要がある。

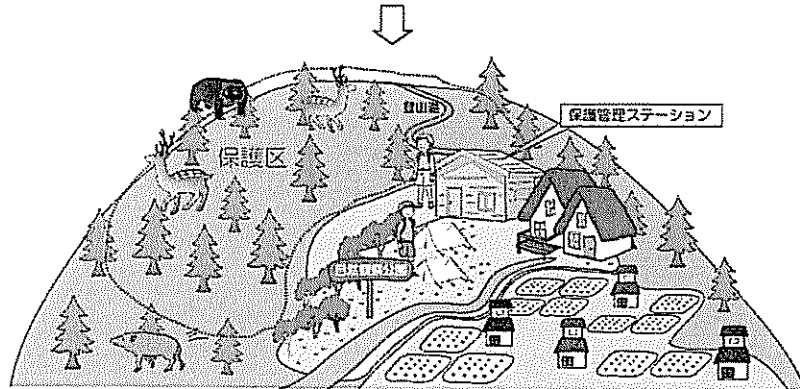
自然公園等の整備の一案



問題

山の奥に自然公園等の施設があると…

- 施設や人間活動で、元もと狭い生息地が分断・損乱される
- 知識のない人が餌付けなどを行う可能性が高まる
- 「人のエリア」と「野生のエリア」の境界が不明確になる



効果

野生動物の動きや人の活動に配慮し施設の配置へんこうすると…

- 野生動物の生息地が確保され、より深い自然体験の場ができる
- 「人のエリア」と「野生のエリア」の境界が明確になる
- 施設をバッファゾーンとして集落の鳥獣害を緩和できる
- 地域と施設の交流を深め、地域の活性化が期待できる
- 道路等を共有でき、利便性や経済性が向上する
- 自然環境の保全と野生動物の管理を一体的な体験と普及が可能

野生動物管理ステーションの設置

問題

野生動物の保護と管理のためには適切な狩猟が重要
しかし、現状では課題も多い

- マナーの問題
- 狩猟に対する理解不足
- 狩猟者の減少、高齢化、後継者不足
- など

対策

野生動物管理ステーションの設置

- 野生動物管理の拠点となる場を設置
- 狩猟者と農業者などの情報交換と交流の場
- 捕獲個体の有効活用 → 解体場所の提供
- 捕獲従事者の育成 → 狩猟者減少への対策、次世代への継承

地元住民



- 被害があるのでどんどん狩猟はして欲しい
- でも、銃を持った知らない人が入ってくるのは少し不安
- 獲物の廃棄や猟犬のことも気になる
- せめて、入猟届でも出して、猟をしてもらえれば安心
- 有害捕獲や狩猟のことも知っておくべき

地元狩猟者 鳥獣捕獲班



- 有害駆除や個体数調整には管理する施設が必要
- 地元の猟場は適切に管理したい
- 狩猟者の入り過ぎやルールを守らない狩猟は危険
- 猟場や要注意箇所を案内することもできる
- 狩猟の後継者を育成していきたい

管理ステーション



ステーションの管理
猟場の維持
狩猟者の紹介

他地域からの狩猟者



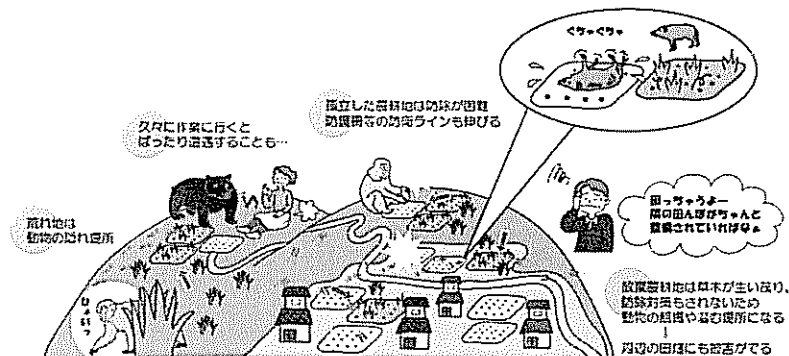
狩猟届、使用料

- 被害防除の役に立つなら、そこで狩猟したい
- 地元の理解の上で気持ちよく狩猟をしたい
- 危険箇所は確認したい
- 解体場所も残渣の処理も大変
- 利用できる施設があればありがたい

【社会資本の整備の例示案】

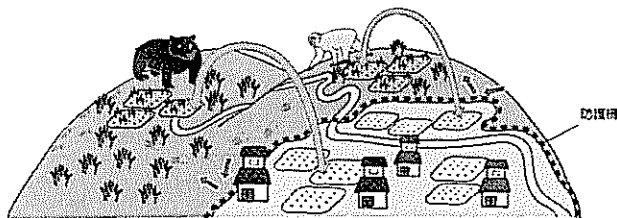
ここでは案を示すが、社会資本の整備は、具体的には、地域の生産目標や防除目標にもとづき地域の防除計画や野生動物管理計画に基づいて行われるべきである。また、生態系や社会的環境には不確定要素が大きいいため、特に自然環境の改変に関しては、その結果をモニタリングし、成果を見極めながら手法を適宜修正し、方法論を確立していく必要がある。

集落環境整備の案1

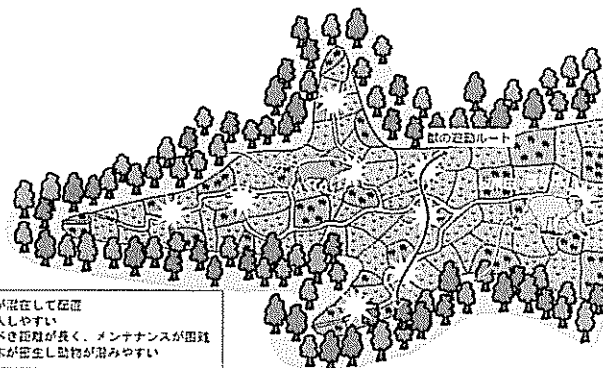


- 問題
- 農耕地の配置に計画性がなく...
 - 防護用の延長距離が長くなる → メンテナンスのコストがかかる
 - 放棄農耕地の荒廃により雑草が繁茂 → 野生動物の隠れ場となる
- 生産性効率が低い上に、防除の労力も大きい

- 対策
- 計画的な農耕地の配置と防衛
- 農耕地を集中させ、防衛ラインを短くする
 - 山中にある条件の悪い農耕地を計画的に放棄 → 耕作を転換し、集落内の条件の良い農耕地で耕作
 - 防除の難しい場所では適切な農地の転用を図る → 防除費用や労力を考慮
 - 優良農地の防護を徹底し、農業の生産効率を上げる



集落環境整備の案2



- 問題
- 放棄田と農耕地が混在して配置
 - 山から田舎へ進入しやすい
 - 防護線を設置すべき距離が長く、メンテナンスが困難
 - 田舎の近くまで木が生え、野生動物が混みやすい

- 対策
- 地域で立てた防除計画に基づいて、集落環境や施設の整備を行う。
- 放棄耕作地を一箇所にまとめ、防衛ラインを短くする
 - フェンスで山と耕作地を区切る → 人間と野生の境界の明確化
 - フェンスに沿って作業道を作る → メンテナンスしやすいハード整備
 - 野生動物接近を感知する警報システム
 - 周辺の森林の間伐、整理 → 野生動物の滞在を防ぎ、追い払いの効果を高める環境整備
 - ハンティングタワーの設置 → 安全で効果的な捕獲

